2025年05月 現在

Fujitsu Software
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V17.0.4

Systemwalker Centric Managerは、情報システムの運用管理を行うための統合基盤となる商品です。

Systemwalker Centric Manager（システムウォーカーセントリックマネージャー）は、システム運用のライフサイクル（導入/設定～監視～復旧～評価）に従い、ソフトウェア資源の配付、システムやネットワークの集中監視、リモートからのトラブル復旧などの優れた機能で運用管理作業を軽減します。また、このライフサイクル管理によりマルチプラットフォーム環境やインターネット環境など、最新のビジネス環境におけるシステムの統合管理、運用プロセスの標準化（ITIL）、運用セキュリティの統制を支援します。

本商品では、Systemwalker Centric Manager Standard Editionの機能に加えて、さらに基幹系業務に最適な大規模・高信頼・高付加価値な機能を提供します。

【画面イメージ～ポータル画面～ 】

Copyright 2025 Fujitsu Limited

適応機種　概要

- **運用管理サーバ**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **Open監視サーバ**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **部門管理サーバ**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **Open監視プロキシサーバ**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **業務サーバ**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **Open監視エージェント**

  PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **運用管理クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

Copyright 2025 Fujitsu Limited

適応OS　概要

- **運用管理サーバ**

  Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **Open監視サーバ**

  Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

- **部門管理サーバ**

  Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **Open監視プロキシサーバ**

  Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

- **業務サーバ**

  Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **Open監視エージェント**

  Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **運用管理クライアント**

  Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10

- **クライアント**

  Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10

Copyright 2025 Fujitsu Limited

機能説明

1. Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionの機能範囲

Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionは、Systemwalker Centric Manager Standard Editionの全機能に加えて、次項以降の機能を提供します。Systemwalker Centric Manager Standard Editionの詳細は、Systemwalker Centric Manager Standard Editionのソフトウェアガイドの「機能説明」を参照ください。

2. セキュリティ

(1) コンソール操作制御

管理者の資格に応じて、Systemwalker コンソールから操作できるサーバーと操作内容を限定することができるため、運用管理作業時の不用意な操作によるオペレーションミスを軽減できます。

また、Systemwalker コンソールの操作内容を監査ログとして出力し、問題ある操作がなかったかを追跡できます。

更に SMARTACCESS に対応する認証デバイスと連携することで、セキュリティ強化を行うことができます。

3. 高信頼システム構築機能

(1) クラスタシステムの監視

クラスタシステムで構築した業務サーバを管理することができます。

Microsoft(R) Fail Over Clusteringで実現する多ノードクラスタサーバー（業務サーバ）も監視できます。

(2) 管理サーバーのクラスタ対応

Systemwalker自身の管理機構をクラスタシステムで動作させることができます。運用管理サーバ／部門管理サーバの片方のノードに障害が発生しても、正常な別ノードで監視業務を引き継ぐことができますので、監視業務の高可用性を実現できます。

(3) 管理サーバーの冗長二重化

2台の運用管理サーバを冗長化して監視します。片側の運用管理サーバがダウンした場合でも、別の運用管理サーバで監視を継続できるため、24時間365日の継続監視が実現できます。また、各サーバーを離れた拠点に設置できるため、災害に強い運用管理システムが構築できます。

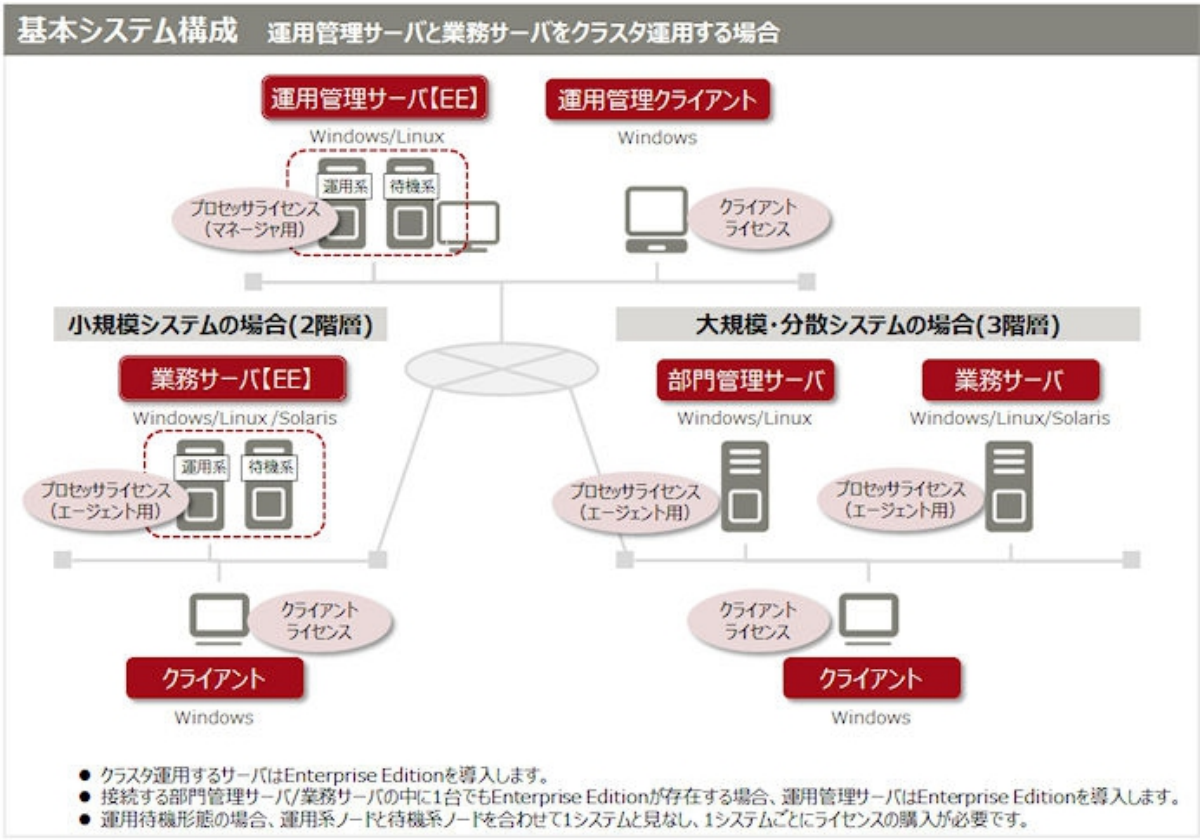
4. 大規模システム構築機能

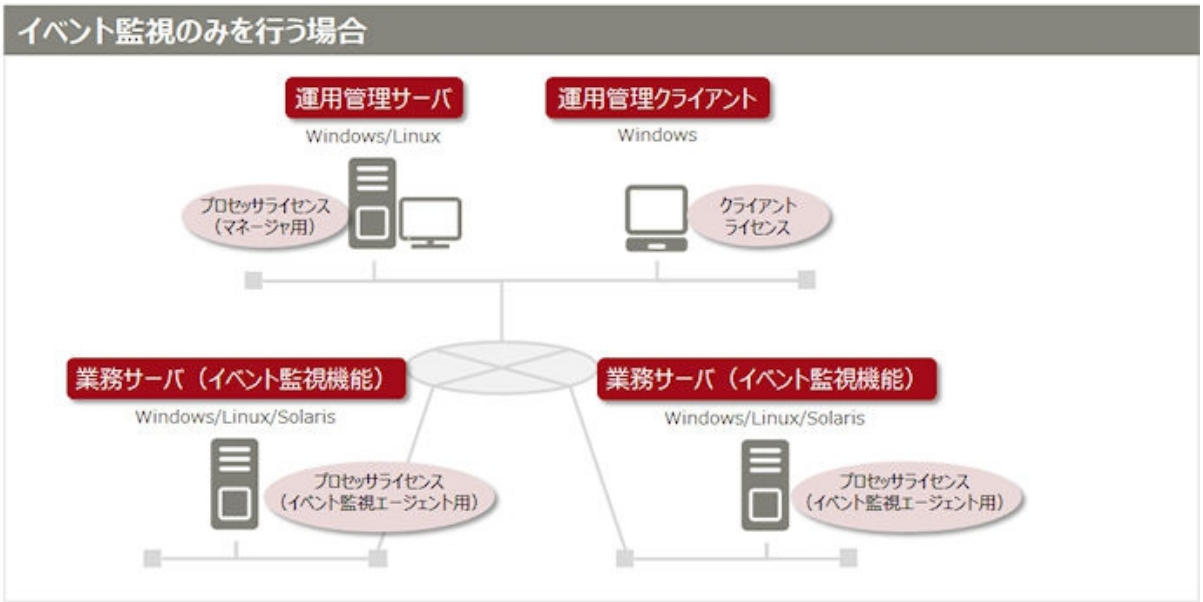
(1) 全体監視（管理サーバの階層化）

各部門に運用管理サーバを設置し、各部門の運用管理サーバをセンターの全体監視サーバで一元管理することができます。この階層管理により超大規模なシステムも管理できるため、運用管理のアウトソーシングなどにも利用できます。部門側で対処できない問題をセンターで管理、昼間は部門で監視して夜間はセンターで監視、といった運用が行えます。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

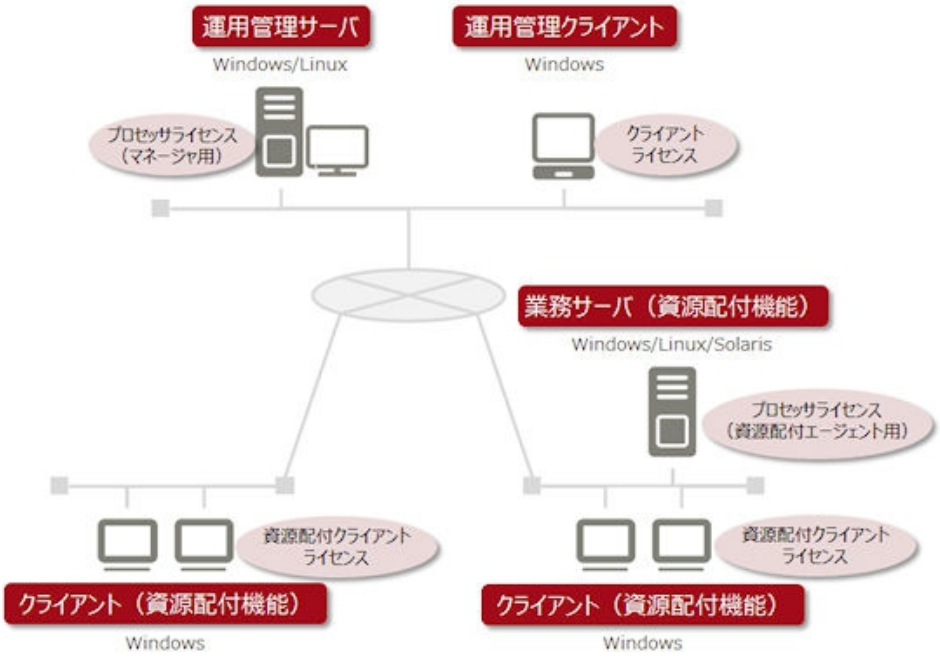
システム/機能構成図



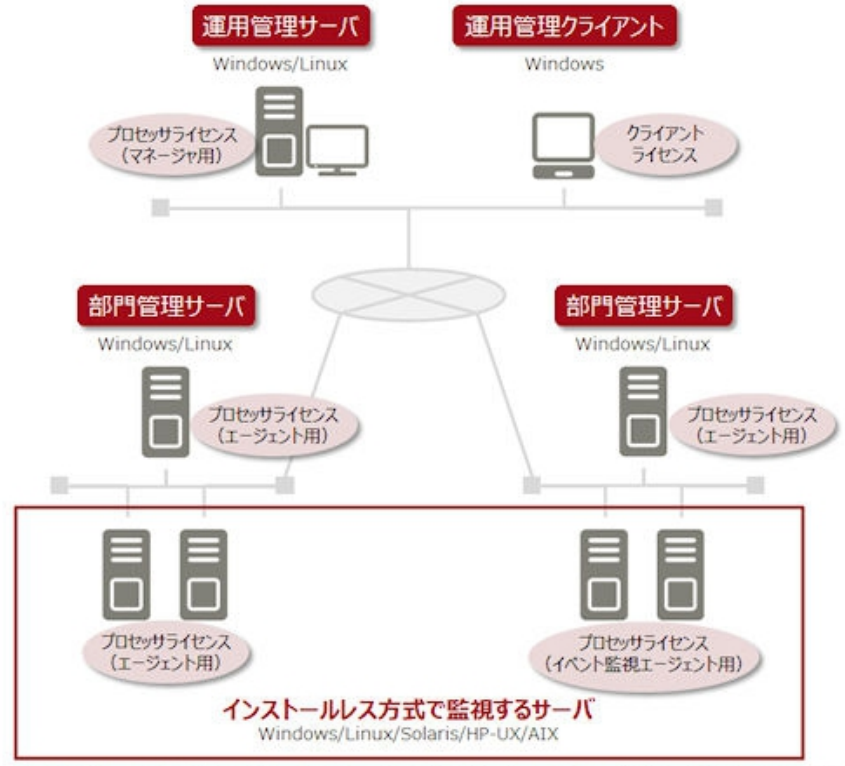


Copyright 2025 Fujitsu Limited

資源配付のみを行う場合



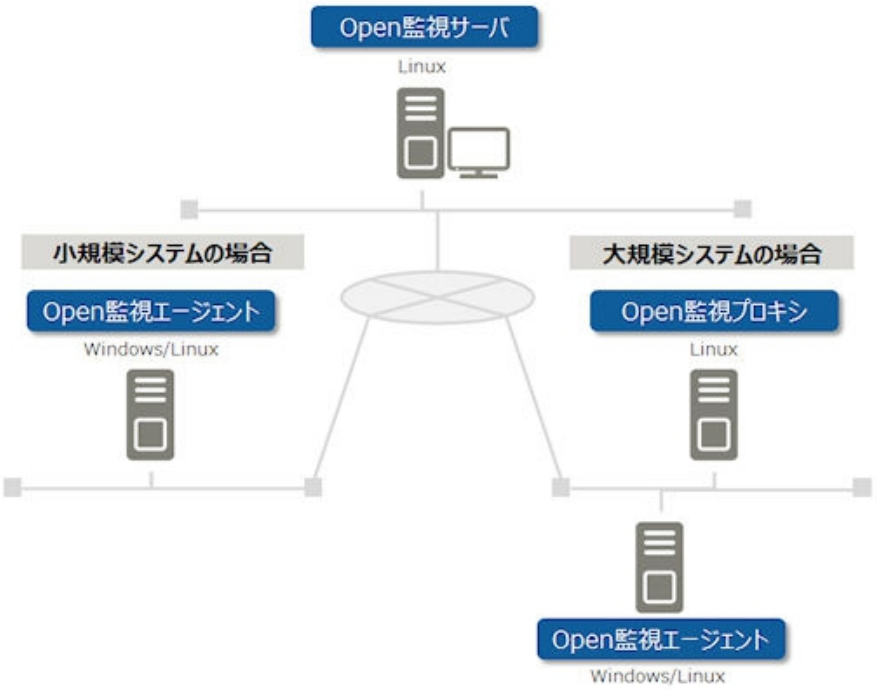
インストールレス方式で監視する場合



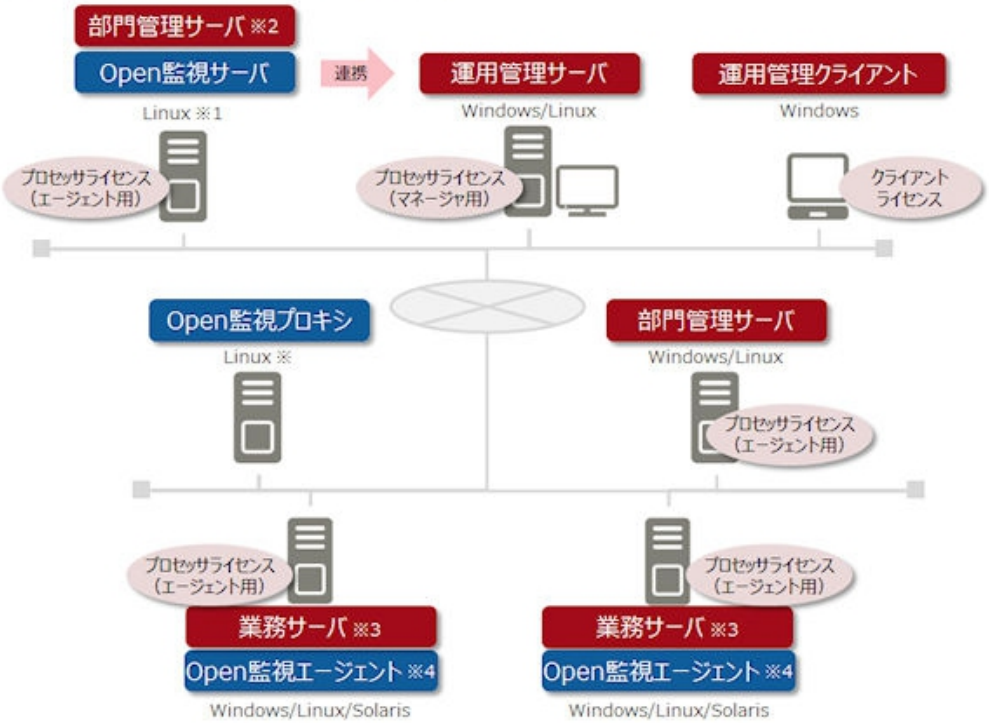
1台の運用管理サーバで監視する「インストールレス方式で監視するサーバ」が301台以上の構成の場合は部門管理サーバが必要です。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

Open監視の基本システム構成



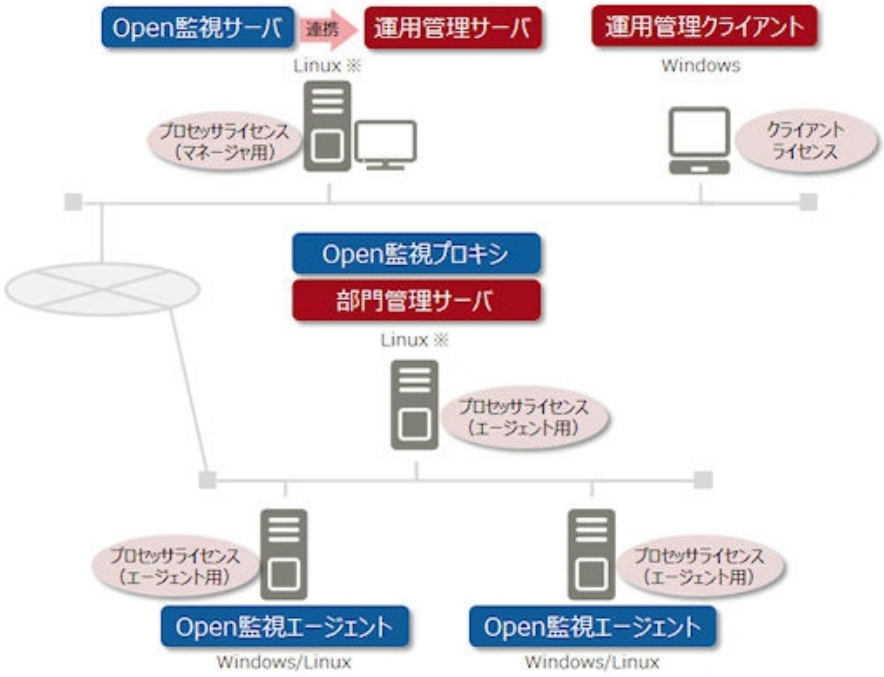
Open監視と統合監視を連携させる場合(1)



※1）Open監視サーバと Open監視プロキシサーバは、Linuxのみ動作可能です。
※2）Open監視サーバと運用管理サーバを連携させる場合は、Open監視サーバ上に部門管理サーバを導入します。
※3）業務サーバ、Open監視エージェントは、同居が可能です。
※4）Open監視エージェントには、Solaris版はありません。

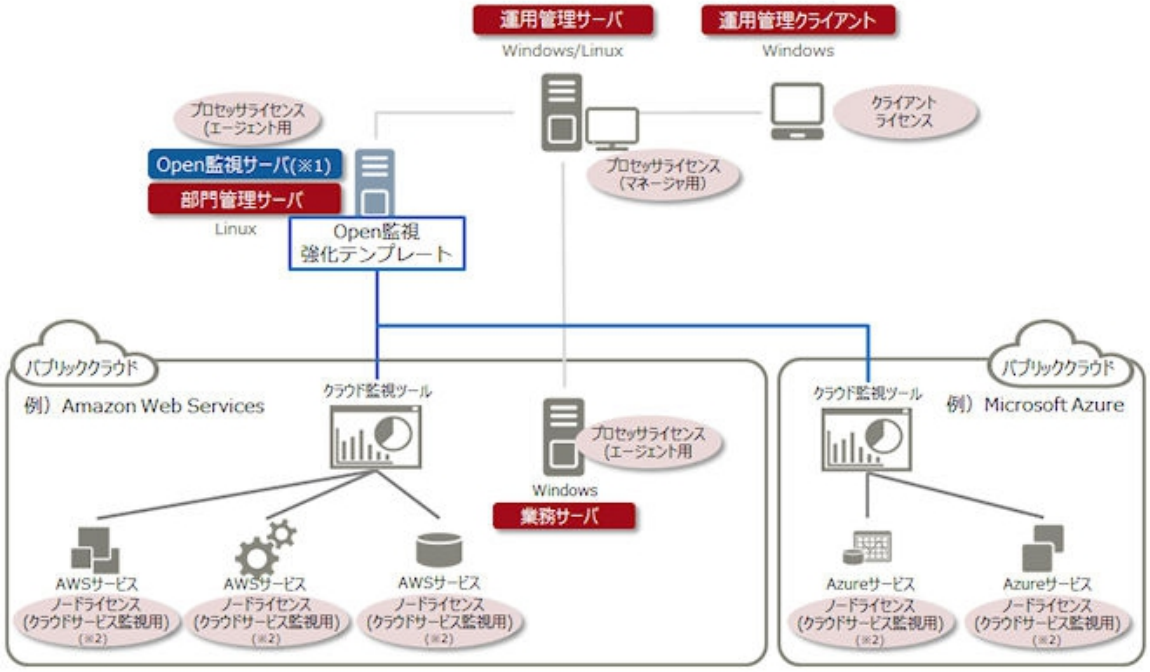
Copyright 2025 Fujitsu Limited

Open監視と統合監視を連携させる場合(2) 運用管理サーバ、部門管理サーバがLinuxの場合



※ Open監視サーバ と Open監視プロキシサーバは、Linuxのみ動作可能です。
- 運用管理サーバがLinuxの場合、Open監視サーバは 運用管理サーバと同居が可能です。
- 部門管理サーバがLinuxの場合、Open監視プロキシは 部門管理サーバと同居が可能です。
- Windows上で運用されている運用管理サーバと連携する場合は、運用管理サーバとは別のLinux上に、Open監視サーバと部門管理サーバをインストールします。

クラウドサービスを統合監視する場合（ハイブリッド監視）



※ 1：Open監視サーバはLinuxのみ動作可能です。
Open監視サーバと運用管理サーバを連携させる場合は、Open監視サーバ上に部門管理サーバを導入します。
※ 2：ノードライセンス(クラウドサービス監視用)は、監視対象とするクラウドサービス(クラウドベンダーが提供するIaaS/PaaS/SaaSなどのサービス)単位で手配します。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

V17.0.3からV17.0.4の機能強化項目は以下のとおりです。

1. ハイブリッド監視機能の機能拡充

ハイブリッド監視機能に、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)を監視する機能を追加します。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

標準添付品

- **オンラインマニュアル**

  ・オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

商品体系

【メディア】

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック(64bit) V17.0.4

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(マネージャ用) for Windows (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) for Windows (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス（イベント監視エージェント用） for Windows (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス（資源配付エージェント用 ） for Windows (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager ノードライセンス（クラウドサービス監視用） (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(マネージャ用) for Windows (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) for Windows (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス（イベント監視エージェント用） for Windows (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス（資源配付エージェント用 ） for Windows (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager ノードライセンス（クラウドサービス監視用） (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

Copyright 2025 Fujitsu Limited

購入方法

1. Enterprise Editionを購入する条件

(1) 運用管理サーバ

以下のいずれかの場合に、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionのマネージャ用商品を購入してください。

・クラスタシステムの場合

・運用管理サーバを二重化する場合

・運用管理サーバを階層化する場合

・接続する部門管理サーバまたは業務サーバに1つでもSystemwalker Centric Manager Enterprise Editionを利用する場合

・コンソール操作制御を行う場合

(2) 部門サーバ、業務サーバ

以下の場合に、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionのエージェント用商品を購入してください。

・クラスタシステムの場合

2. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（CD/DVD等）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。初回購入時には、最低1本のメディアパックとサブスクリプションライセンス／サポートを同時にご購入ください。

本メディアパックの購入でバージョンアップ／レベルアップすることはできません。

バージョンアップ／レベルアップする場合は本メディアパックを購入せず、アップグレード権を行使してメディアを入手してください。

3. プロセッサライセンスについて

(1) プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサあたり1本の購入が必要です。

・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

(2) 運用管理サーバには（マネージャ用）、部門管理サーバ／業務サーバには（エージェント用）、システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには（イベント監視エージェント用）、資源配付機能だけが必要な業務サーバには（資源配付エージェント用）の各種ライセンスを必要数分手配願います。

（エージェント用）のライセンスは、（イベント監視エージェント用）および（資源配付エージェント用）を包含しています。

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、アプリケーション監視、サーバ性能監視を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注1)、(注2)」を参照ください。

なお、Open監視強化テンプレートを利用してクラウドサービスを監視する場合に必要なライセンスについては、「4. ノードライセンスについて」を参照ください。

(3) イベント監視エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Event Agentで提供していた、業務サーバの機能のうち、イベント監視機能に限定して提供するライセンスです。システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注1)、(注2)」を参照ください。

(4) 資源配付エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、業務サーバの機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。資源配付機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

(5) Open監視サーバは、インストールフリーです。

運用管理サーバがWindows／Solarisの場合は、Open監視サーバをLinuxサーバに導入してください。

運用管理サーバがLinuxの場合には、Open監視サーバを運用管理サーバと同じサーバに導入することも、Open監視サーバを運用管理サーバとは別のLinuxサーバに導入することも可能です。

ただし、運用管理サーバとOpen監視サーバを別サーバに導入した場合（前述の「システム／機能構成図」の「Open監視と統合監視を連携させる場合(1)」を参照）に運用管理サーバとOpen監視サーバを連携するには、Open監視サーバ上に部門管理サーバを導入してください。部門管理サーバを導入した場合、（エージェント用）ライセンスを手配願います。

(6) Open監視プロキシサーバは、インストールフリーです。

部門管理サーバがWindows／Solarisの場合は、Open監視プロキシサーバをLinuxサーバに導入してください。

部門管理サーバがLinuxの場合には、Open監視プロキシサーバを同じサーバに導入することも可能です。または、Open監視プロキシサーバを別のLinuxサーバに導入することも可能です。

(7) Open監視エージェントを導入する場合、（エージェント用）ライセンスを手配願います。ただし、Open監視エージェントが業務サーバと同居する場合は、業務サーバのために手配した（エージェント用）ライセンスでOpen監視エージェントも利用できます。

(注1) Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で監視する場合について

インストールレス方式では、利用する機能の違いによって購入が必要なライセンスが異なります。

・インストールレス方式で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)の購入が必要です。

・インストールレス方式で、アプリケーション監視、サーバ性能監視、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(エージェント用)の購入が必要です。

(注2) パブリッククラウドを、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で監視する場合について

・購入が必要なライセンスは、インストールレス方式と同じです。

・本商品で監視する、パブリッククラウド上のコンピュート インスタンスのCPU数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数は切上げ）分のライセンスが必要となります。 係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

4. ノードライセンスについて

(1)ノードライセンス（クラウドサービス監視用）

クラウド監視ツールと連携してクラウドサービス(IaaS/PaaS/SaaS)を監視する場合は、監視対象となるクラウドサービス数分の「ノードライセンス（クラウドサービス監視用）」を手配してください。

クラウドサービス数は以下の識別子単位でカウントします。

・Amazon Web Services の場合：Amazonリソースネーム(ARN)

・Microsoft Azure の場合：リソースID

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・Oracle Cloud Infrastructureの場合：Oracle Cloud ID (OCID)

5. クライアントライセンスについて

(1) 運用管理クライアント

運用管理クライアントをインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバ台数には依存しません。

(2) クライアント

資源配付、インベントリ管理、リモート操作等のクライアント機能をインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

(3) 資源配付クライアント

資源配付クライアントライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、クライアント機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。クライアントのうち、資源配付のクライアント機能だけをインストールする台数分のライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

6. サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約 の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

7. クラスタ運用時の購入方法

【運用管理サーバの場合】

・運用管理サーバは、1:1運用待機の形態のみ動作可能です。

・運用系ノード、待機系ノードを合わせて1システムと見なします。1システムごとにSystemwalker Centric Manager Enterprise Edition（マネージャ用）ライセンスが必要です。待機系ノードのライセンスの購入は不要です。

【部門管理サーバの場合】

・部門管理サーバは、1:1運用待機の形態のみ動作可能です。

・運用系ノード、待機系ノードを合わせて1システムと見なします。1システムごとにSystemwalker Centric Manager Enterprise Edition（エージェント用）ライセンスが必要です。待機系ノードのライセンスの購入は不要です。

【業務サーバの場合】

・業務アプリケーションをクラスタシステム上で運用する場合、業務サーバを各ノードに導入し、業務アプリケーションおよびシステムを監視することができます。

・運用待機の形態では、運用系ノードのみ、Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition（エージェント用）ライセンスが必要です。待機系ノードのライセンスの購入は不要です。

・その他の形態（相互待機型構成など）では、各ノードともSystemwalker Centric Manager Enterprise Edition（エージェント用）ライセンスが必要です。

・動作可能なクラスタシステムの運用形態は、「関連ソフト」の「高信頼システム対応」を参照してください。

※Oracle Real Application Clusters(Oracle RAC)について

Oracle Real Application Clustersは、Oracle データベースをクラスタ構成にするソフトウェアです。Oracle RACが導入されているサーバを監視するために、Systemwalker Centric Managerの業務サーバを導入する場合は、Standard Editionをご使用になれます。運用系、待機系等の各ノードに導入する業務サーバ数分のSystemwalker Centric Manager Standard Edition（エージェント用）ライセンスを購入ください。

8. 購入時の特約事項

Copyright 2025 Fujitsu Limited

サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

【V17.0.4/V17.0.3】

［プロセッサライセンス(マネージャ用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

インストールレス型エージェントを利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。インストールレス型エージェントを利用する場合、Systemwalker Centric Managerプロセッサライセンス(エージェント用)またはSystemwalker Centric Managerプロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)のいずれかをご購入いただく必要があります。

(3) 対象プログラムをインストールするコンピュータよりノード（富士通の指定するクラウドサービス事業者により作成、提供される、お客様が利用するサービス・リソースをいい、クラウドサービス事業者がサービス・リソースに割り当てた識別子ごとにカウントされます）を監視する場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号にかかわらず、本製品等とは別にノードの監視に関するライセンスを購入することにより、日本国内において、当該ライセンスに定める数分のノードを監視することができます。なお、本製品等の対象となるクラウドサービスについては、別途富士通の提供する本製品等の説明資料に定めるものとします。

(4) お客様は、自らの責任と費用負担で、当該クラウドサービス事業者とノードの利用に関する契約を締結するものとし、富士通は、当該ノードおよびクラウドサービス事業者に起因しお客様に生じた損害につき一切の責任を負わないものとします。

(5) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(6) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［プロセッサライセンス(エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

Copyright 2025 Fujitsu Limited

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品等により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) Open監視機能の使用について

対象プログラムにOpen監視機能が含まれる場合、本機能については、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号にかかわらず、監視するサーバ（以下「Open監視サーバ」といいます）または中継するサーバ（以下「Open監視プロキシサーバ」といいます）に、対象プログラムを、富士通が動作環境として指定しているOSが動作する別のコンピュータに、インストールして使用することができます。

(4) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(5) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Copyright 2025 Fujitsu Limited

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品等により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(4) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［プロセッサライセンス(資源配付エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［ノードライセンス（クラウドサービス監視用）に適用されるライセンス使用条件］

適用なし

［1クライアントライセンス、20クライアントライセンス、1資源配付クライアントライセンス、20資源配付クライアントライセンスに適用されるライセンス使用条件］

Copyright 2025 Fujitsu Limited

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

【V17.0.2/V17.0.0】

［プロセッサライセンス(マネージャ用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

インストールレス型エージェントを利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。インストールレス型エージェントを利用する場合、Systemwalker Centric Managerプロセッサライセンス(エージェント用)またはSystemwalker Centric Managerプロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)のいずれかをご購入いただく必要があります。

(3) 対象プログラムをインストールするコンピュータよりノード（富士通の指定するクラウドサービス事業者により作成、提供される、お客様が利用するサービス・リソースをいい、クラウドサービス事業者がサービス・リソースに割り当てた識別子ごとにカウントされます）を監視する場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号にかかわらず、本製品等とは別にノードの監視に関するライセンスを購入することにより、日本国内において、当該ライセンスに定める数分のノードを監視することができます。なお、本製品等の対象となるクラウドサービスについては、別途富士通の提供する本製品等の説明資料に定めるものとします。

(4) お客様は、自らの責任と費用負担で、当該クラウドサービス事業者とノードの利用に関する契約を締結するものとし、富士通は、当該ノードおよびクラウドサービス事業者に起因しお客様に生じた損害につき一切の責任を負わないものとします。

(5) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

［プロセッサライセンス(エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

Copyright 2025 Fujitsu Limited

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品等により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) Open監視機能の使用について

対象プログラムにOpen監視機能が含まれる場合、本機能については、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号にかかわらず、監視するサーバ（以下「Open監視サーバ」といいます）または中継するサーバ（以下「Open監視プロキシサーバ」といいます）に、対象プログラムを、富士通が動作環境として指定しているOSが動作する別のコンピュータに、インストールして使用することができます。

(4) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

［プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品等により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

Copyright 2025 Fujitsu Limited

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

［プロセッサライセンス(資源配付エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

9. 購入例

前述「システム／機能構成図」の「基本システム構成」の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

【システム構成】

・運用管理サーバ（2コア、2CPU 構成）： 2台（運用系、待機系）(※)

・業務サーバ　　（2コア、2CPU 構成）： 2台（運用系、待機系）(※)

・部門管理サーバ（2コア、2CPU 構成）： 1台

・業務サーバ　　（2コア、2CPU 構成）： 1台

・運用管理クライアント ： 1台

・クライアント　　： 2台

(※)運用待機形態の場合、運用系ノードと待機系ノードを合わせて1システムとみなし、システムごとにライセンスの購入が必要です。

【対象製品と購入数】

〔メディアパック〕

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17

→ 各 1枚

〔ライセンス〕

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(マネージャ用) for Windows (SL&S)

→ 運用管理サーバ（2コア×2CPU×コア係数)×1システム分

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) for Windows (SL&S)

→ 業務サーバ（2コア×2CPU×コア係数)×1システム分

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) for Windows (SL&S)

→ 部門管理サーバ (2コア×2CPU×コア係数)×1台分 ＋ 業務サーバ (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

→ 運用管理クライアント × 1台分 ＋ クライアント × 2台分

Copyright 2025 Fujitsu Limited

関連ソフト

1. Systemwalkerファミリ製品との連携

データベースソフトOracleの稼働管理、トラブル分析、対処などを集中管理する場合、下記のいずれかのオプション製品の導入が必要です。

同一サーバ上に Systemwalker Centric Managerと以下のSystemwalker for Oracle製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

〔オプション製品〕

・Systemwalker for Oracle Enterprise Edition V15.1.0以降

・Systemwalker for Oracle Standard Edition V15.1.0以降

2. マルチプラットフォーム対応

マルチプラットフォームの分散システムを管理する場合、各プラットフォームに対応したSystemwalker Centric Manager商品が必要です。

3. 高信頼システム対応

(1) クラスタ環境においてSystemwalker Centric Manager Enterprise Editionを使用する場合、以下に含まれるMicrosoft(R) Fail Over Clusteringのいずれかの環境が必要となります。

・Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter(注)

・Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard(注)

・Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter(注)

・Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard(注)

注）以下のコンポーネントを追加インストールしてください。

- FailoverCluster-AutomationServer

- FailoverCluster-CmdInterface

(2) Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionがサポートするクラスタシステムの運用形態は以下のとおりです。

〔運用管理サーバ、部門管理サーバを導入する場合〕

クラスタシステム上に導入する、運用管理サーバ、部門管理サーバは、 1：1 運用待機の形態のみ動作可能です。

〔業務サーバを導入する場合〕

業務アプリケーションをクラスタシステム上で運用する場合、業務サーバを各ノードに導入し、業務アプリケーションおよびシステムを監視することができます。業務サーバは、以下の運用形態で動作可能です。

・Systemwalker自身が対象の運用形態をサポート

- 運用待機(1：1)

- 運用待機(1：N)（注）

- 相互待機（注）

注）資源配付機能に限り、1:1運用待機の形態のみサポート

・クラスタソフトウェアがサポートしない運用形態

- 運用待機(N：1)

Copyright 2025 Fujitsu Limited

動作保証周辺機器

なし

Copyright 2025 Fujitsu Limited

留意事項

1. WindowsサーバOS(64-bit)上での動作

本商品は、以下のOS上で、64ビットアプリケーションとして動作します。

・Windows Server 2016(64-bit)

・Windows Server 2019(64-bit)

・Windows Server 2022(64-bit)

2. WindowsデスクトップOS(64-bit)上での動作

本商品は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

・Windows 10(64-bit)

・Windows 11(64-bit)

注) Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. Intel64環境での動作について

本商品のOpen監視サーバ／Open監視プロキシサーバは、以下のディストリビューションの環境で64ビットアプリケーションとして動作します。

・Open監視サーバ

-Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

-Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)

・Open監視プロキシサーバ

-Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

-Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

-Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)

4. パッケージ構成について

Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパックには、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

V17のメディアパックでは、DVD媒体で提供します。

・Systemwalker Centric Manager メディアパック (64bit) Disc 1

- マネージャプログラム(運用管理サーバ(64bit)
- エージェントプログラム(部門管理サーバ(64bit)、業務サーバ(64bit))
- エージェントプログラム(Open監視エージェント (64bit))
- クライアントプログラム(運用管理クライアント(Windows(32bit))、クライアント(Windows(32bit)))
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

・Systemwalker Centric Manager メディアパック (64bit) Disc 2

- Open監視サーバ(Linux(64bit)) (注)
- Open監視プロキシサーバ(Linux(64bit)) (注)

注) Open監視サーバ、Open監視プロキシサーバについて

運用管理サーバがWindows／Solarisの場合、Open監視サーバはLinuxサーバに導入が必要です。

部門管理サーバがWindows／Solarisの場合、Open監視プロキシサーバはLinuxサーバに導入が必要です。

Open監視サーバ、Open監視プロキシサーバは、本媒体のDisc 2に同梱しています。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

5. インストールについて

メディアパックは、DVDで提供されます。

インストールにはDVDドライブユニットが必要です。

DVDドライブユニットが搭載されていないマシンの場合は別途手配が必要です。

DVDドライブユニットを入手できない場合は、Windowsのファイル共有を利用したネットワークインストールが可能です。（ただし、ローカルのDVDドライブユニットと比べて作業時間を要します。）インストールする場合、DVD装置が接続されているPRIMERGYまたはFMVのDVDドライブをネットワークドライブとして割り当て後、ネットワーク経由でインストールを行います。

6. Windows Server 2022(64-bit)をご使用になるうえでの注意事項について

Windows Server 2022 上のSystemwalker Centric Managerに対してサーバアクセス制御機能は使用できません。

7. Windows Server 2019(64-bit)、Windows Server 2022(64-bit)をご使用になるうえでの注意事項について

インストールレス方式でWindows Server 2019、Windows Server 2022の業務サーバをSSH通信により監視する場合、その業務サーバのWindows Defenderの設定で、Windows Defender Exploit Guardを無効にしてください。

8. Windows Server 2016(64-bit) 、Windows Server 2019(64-bit)、Windows Server 2022(64-bit)をご使用になるうえでの注意事項について

(1) 移行

Windows Server 2016(64-bit)、Windows Server 2019(64-bit)、Windows Server 2022(64-bit)上の環境と、その他の動作OS上の環境との間では、Systemwalkerの各種資源および定義情報をバックアップ／リストアすることができません。Systemwalker Centric Managerの運用環境の再構築が必要です。

(2) 資源配付

データ圧縮機能は使用することはできません。

(3) 障害対処の自動化

アクション定義におけるポケットベル通報ならびに音声通知機能は使用できません。

(4) スクリプト

Systemwalkerスクリプトにおいて、1つのスクリプト内でexecコマンドを繰り返し呼び出す場合、最大100回までにする必要があります。

(5) その他

各機能に対して指定するファイルやディレクトリとして、(OSインストールディレクトリ)￥system32ディレクトリ配下のものを指定することはできません。

ただし、監視ログファイル設定画面に定義する監視ファイルに(OSインストールディレクトリ)￥system32ディレクトリ配下のものを指定することは可能です。

9. Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022での運用の注意事項

(1) システム監視

・イベントログへの出力文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのメッセージを正しく監視できません。

・ログファイル監視機能を使用して対象のログファイルの内容に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのログを正しく監視できません。

・リモートコマンド発行におけるコマンド文字列（コマンド名、パラメタ）やその応答文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、正しく実行できません。

(2) リモート操作

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含むユーザ／グループでWindowsにログインし、リモート操作クライアントを除くリモート操作の機能を使用することができません。

・リモート操作中にWindows 10/Windows 11の「ユーザの切り替え」を選択するとリモート操作が中断します。

・Clientにセッションを接続した状態で、「ログオフ」操作を実行するとセッションが自動的に切断します。

(3) アクション実行

・画面を表示するようなアプリケーションは指定できません。

(4) 文字コード

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を以下に指定しないでください。

- コンピュータ名
- GUI画面
- コマンドのオプション
- APIのパラメタ
- Systemwalkerスクリプトのスクリプトファイル、入力データ

10．32bit版/64bit版の組み合わせに関する注意事項

Windows Server 2016(64-bit)、Windows Server 2019(64-bit)、Windows Server 2022(64-bit)上での製品組み合わせに関する注意事項です。

(1) 同一サーバ上に Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバと以下のInterstage製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

・Interstage Application Server Enterprise Edition V12.0.0 以降

・Interstage Application Server Standard-J Edition V12.0.0 以降

(2) グローバルサーバ上の帳票資源を資源配付で受信・中継する場合で、同一サーバ上にSystemwalker Centric Manager製品と以下の製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

- Linkexpress V5.0aL23以降

11．リモート操作を行う場合の注意事項

ターミナルサービスとリモート操作の[Client]プログラムの両方に接続可能な環境の場合、リモート操作でセッションを開始した際、または実行中に、「画面転送を停止しています」という旨のメッセージが表示されて画面転送が停止される場合があります。

画面転送が停止されるタイミングおよび操作は以下のとおりです。

・オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続する。その後、オペレータBがリモート操作で接続した時（セッション開始時）

・オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続し、切断する。その後、オペレータBがリモート操作で接続した時（セッション開始時）

・オペレータBがリモート操作で接続中に、オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続した時

リモートデスクトップでターミナルサービス（コンソールセッション）に接続すると、接続されたマシンは「コンピュータのロック」状態になります。この状態から画面転送を再開させるには、以下の対処を行ってください。

1) 接続先のローカルマシン上（リモート操作の[Client]プログラムが動作している端末上）で、コンピュータのロックを解除してください。（ほとんどの場合、この操作で画面転送が再開されます）

2) 手順1の対処で画面転送が再開されない場合は、接続先のローカルマシン上ですべてのユーザーをログオフした後、ログオンし直してください。

なお、ターミナルサービスでリモートセッションに接続した場合は、上記事象は発生しません。

12．リモートデスクトップ接続を行う場合の注意事項

(1) SystemwalkerコンソールなどのGUIの複数起動について

Copyright 2025 Fujitsu Limited

リモートデスクトップ接続で同一コンピュータに複数のユーザがログオンしても、そのコンピュータ上で起動できるSystemwalkerコンソールは1つだけとなりますので、リモートデスクトップ接続時には、接続先のコンピュータ上でSystemwalkerコンソールを操作することができません。

このほかにも、デスクトップ管理／インベントリ管理画面、ソフトウェア修正管理画面など、各GUIは1つだけ起動できます。

(2) 電源制御について

電源切断対象の端末にリモートデスクトップ接続を行っている状態で、クライアントの電源切断を行った場合、電源切断が中止されます。

強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプション指定する必要があります。

(3) 接続形態について

以下の操作については、リモートセッションで接続した場合は使用できませんので、コンソールセッションで接続してください。

・Systemwalkerのインストール

・バックアップ

・保守情報収集ツール

・全体監視サーバ／運用管理サーバのホスト名やIPアドレスの変更

(4) 利用できない機能

以下の機能は、リモートデスクトップ接続での使用はできません。

・環境作成

・リストア

・リモートコマンドAPI

13．プラットフォームとバージョンの混在について

(1) プラットフォームやバージョンを混在して接続した場合について

使用できる機能は、それぞれのSystemwalker Centric Managerが共通でサポートしている範囲です。

(2) 運用管理サーバと部門管理サーバ／業務サーバの組み合わせについて

プラットフォームの混在環境において、マネージャ（運用管理サーバ）とエージェント（部門管理サーバ、業務サーバ）は、V/Lが異なっていても接続できます。

本製品を、旧V/Lの運用管理サーバ、部門管理サーバ、または、業務サーバと接続した場合、旧V/Lの機能範囲で使えます。

(3) 運用管理サーバと運用管理クライアントの接続性について

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。

ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません。

14．他製品との共存について

Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionと共存できない、または共存時に注意が必要なソフトウェアは、以下のとおりです。

〔共存できないソフトウェア〕

(1) 以下の製品は、Systemwalker Centric Manager サーバ全種類およびクライアント全種類と共存できません。

・Systemwalker Live Help Client

・Systemwalker Live Help Expert

・Systemwalker Live Help Connect

・Systemwalker Desktop Patrolのリモート操作機能

・Systemwalker Runbook Automation 管理サーバ【Windows(32bit)版】

(2) リモート操作機能を使用する場合は、以下の製品とは共存できません。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・他社のリモートコントロール製品

・ XenApp （MetaFrame および、Citrix Presentation Serverは、XenAppに名称が変更になりました。）

(4) 資源配付エージェントを使用する場合は、以下の製品と共存できません。

・Systemwalker Operation Manager V13.2.0以前

〔共存時に注意が必要なソフトウェア〕

(1) 運用管理サーバ、および、運用管理クライアントでは、以下のInterstage、および、Object Director製品とは共存できません。

・Interstage Application Server Standard-J Edition V10以降
・Interstage Application Server Enterprise Edition V10以降
・Interstage Application Server Enterprise Edition 【Windows(32bit)版】
・Interstage Application Server Standard-J Edition 【Windows(32bit)版】
・Interstage Web Server Express V11
・Interstage Studio Standard-J Edition V10以降
・Interstage Business Application Manager Enterprise Edition for .NET V1 以降
・Interstage Business Application Manager Standard Edition for .NET V1 以降
・Interstage Business Application Manager Developer Edition for .NET V1 以降
・Interstage Business Application Manager Component Connector for .NET V2 以降
・Interstage Business Application Server Standard Edition V10以降
・Interstage Business Application Server Enterprise Edition V11以降
・Interstage List Works Standard Edition V9以降
・Interstage List Works Enterprise Edition V9以降
・Interstage Shunsaku Data Manager Enterprise Edition V8以降

15. オンラインバックアップについて

クラスタ構成の場合は、オンラインでバックアップすることはできません。

16. ハードウェア資源について

(1) モバイル端末

Systemwalker Webコンソール（モバイル版）を使用するためには、以下のハードウェアが1つ以上必要です。

〔iモード端末〕

・全てのiモード対応携帯電話

〔上記以外のモバイル端末〕

・HTML2.0以上に準拠したブラウザが動作するモバイル端末

(2) 資源配付

携帯端末への配付を行う場合、Microsoft Windows CEまたは、Palm OSが動作するモバイル端末が必要です。

(3) 監視

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、以下のハードウェアが必要です。

〔音声による通知を行う場合〕

WAVEオーディオカード。ただし、機種によりオーディオカードを搭載できない場合があります。

(4) SMARTACCESSについて

コンソール操作制御とSMARTACCESSとを連携した認証を行い場合、以下の認証装置が必要です。

〔SMARTACCESSがサポートする認証装置〕

・スマートカード
・ICカード(Felica方式)

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・指紋センサー

・静脈センサー

(5) 障害復旧

リモートからクライアントの電源制御を行う場合、以下の条件を満たすハードウェアが必要です。

〔クライアントの電源投入〕

Wakeup on LANをサポートしている機種である。かつ、

Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。かつ、

Wakeup on LANによる電源投入をBIOSレベルで有効になっている。

〔クライアントの電源切断〕

APM(Advanced Power Management)または、

ACPI(Advanced Configuration & Power Interface)をサポートしている機種である。かつ、

Windowsからの電源切断が可能になっている。

17. ソフトウェア資源について

(1) コンソール

インターネットでSystemwalker Webコンソールを使用して監視する場合、DMZ内にリバースプロキシが必要です。以下の製品のHTTPアプリケーションゲートウェイ機能(リバース機能)を使用してください。

・Interstage Application Server

Systemwalker Webコンソールを使用する場合、WWWブラウザが必要です。以下に示すWWWブラウザを使用することをお勧めします。

・Microsoft Internet Explorer 11 (注)

・Microsoft Edge(Internet Explorerモード)

注) Internet Explorer 11上での動作

- 新しいWindows UIに対応したInternet Explorer 11でWebコンソールは使用できません。デスクトップ版Internet Explorer 11を使用してください。

- ブラウザで表示されるプルダウン項目の文字が一部欠けることがあります。

- 運用状況画面で表示される円グラフの影が表示されないことがあります。

(2) 資源配付

Windows 用の資源を圧縮して配付する場合、資源を登録するシステムにCOMPRESS.EXEが必要です。

COMPRESS.EXEは、以下の書籍に同梱されています。

・Microsoft Windows 2000 Server リソースキット

(3) 監視

a) ネットワーク／システムの監視

トラップの監視、MIB監視の監視対象となるノードでは、以下のソフトウェアが動作している必要があります。

- トラップの監視、MIB監視を使用したネットワーク／システムの監視

・SNMPエージェント

- ネットワーク性能の監視

・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

- システム性能の監視

・SNMPエージェント

Copyright 2025 Fujitsu Limited

b) 管理者への通知

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、以下のソフトウェアが必要です。

- 電子メール

・受信側にE-Mail受信用のソフトウェア

- 音声通知

・32bit OSが動作するクライアント上で、Microsoft Speech API (SAPI 5.1以下)対応の音声合成エンジンが実装されている製品

c) イベント監視の条件定義

「イベント監視の条件定義」のCSVファイルをEvent Designerツールで変更、参照する場合、以下のソフトウェアが必要です。

・Microsoft Excel 2016 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel 2019 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel 2021 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel for Office 365（32ビット版/64ビット版）

(4) コンソール操作制御

コンソール操作制御でSMARTACCESSと連携して認証装置を使用する場合は、以下のソフトウェアが必要です。

・SMARTACCESS/Basic（ハードの添付ソフトウェア）

・SMARTACCESS/Premium V1.1以降

(5) 監査ログ分析

監査ログ分析機能を使用する場合、以下のソフトウェアが必要です。

[運用管理サーバの場合]

・Interstage Navigator Server Standard Edition V9.5

(6) 仮想環境での運用について

Systemwalker Centric Managerの仮想環境での運用を行う場合、以下のソフトウェアが必要です。

・VMware vSphere 7.0

・VMware vSphere 8.0

・Windows Server の Hyper-V

(7) ServiceNow連携の対応バージョン

ServiceNow連携機能で連携可能なServiceNowのバージョンは以下のとおりです。

ただし、ServiceNowのサポートが終了になった場合、本機能のサポートも終了します。

・Xanadu

・Yokohama

18．インストールレス方式での監視について

(1)Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で業務サーバ/クライアントを監視する場合、Systemwalker Centric Managerをインストールした場合と比べ、下表のような差異があります。

(2)エージェントをインストールした場合はリアルタイムで監視しますが、インストールしない場合は一定時間間隔で情報を取得し、監視します。

(3)1台の監視サーバで監視できる業務サーバ/クライアントは300台までです。301台以上の大規模構成の場合は、部門管理サーバを導入し、3階層構成にする必要があります。

(4)本方式でのサポート対象プラットフォームについては、Systemwalkerのホームページを参照してください。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

エージェントをインストールした場合との差異

記号の説明）　○：使用できます。×：使用できません。

機能	プロセッサライセンス(エージェント用)を購入した場合		プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)を購入した場合	
	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合
インベントリ管理	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
イベント監視	○	○	○	○
リモートコマンド	○	○	○	○
ログファイル監視	○	○(注2)	○	○(注2)
アプリケーション監視	○	○(注3)	×	×
サーバ性能監視	○	○(注4)	×	×
リモート電源制御	○	×	×	×
監査ログ収集	○	×	○	×

注1）ハードウェア情報/ソフトウェア情報の一部のみ収集不可。
収集内容がエージェント導入の場合と異なる場合あり。

注2）ファイル名が途中で変わるログファイルは監視不可。
共有ディスク上のログファイルは監視不可。

注3）アプリケーションの稼働違反監視、プロセス数違反監視、稼働違反時のプロセス制御、稼働違反抑止/再開 が可能。

注4）しきい値監視（CPU使用率、実メモリ使用率、ディスク使用率）が可能。
ただし イベント自動対処は不可。復旧イベントで代替可能。

19．本商品をご使用になる上での注意事項について

(1) コンソール操作制御について

コンソール操作制御を使用する場合、Systemwalker Webコンソールは使用できません。

20．SAN boot/自動リカバリについて

被監視サーバにおいて、SAN boot環境で自動リカバリを行った場合、インベントリ情報として収集している以下のハードウェア情報と、実際の情報に差異が発生します。このような場合には、再度インベントリ情報を収集することにより、正しい情報に回復することができます。

・MACアドレス

・メモリサイズ

・CPUタイプ

・CPUクロック数

21．Systemwalker Centric Manager Windows Azure 監視ツールを利用する場合について

Systemwalker Centric Manager Windows Azure 監視ツールを使用した監視は推奨しません。Open監視強化テンプレートを利用して監視してください。

22．オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは 以下のとおりです。

・Systemwalker Centric Manager マニュアル体系と読み方

・Systemwalker Centric Manager リリース情報

・Systemwalker Centric Manager 必須パッケージ 【Linux】

・Systemwalker Centric Manager 解説書

・Systemwalker Centric Manager 導入手引書

Copyright 2025 Fujitsu Limited

・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編
・Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 ソフトウェア修正管理機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Connect管理者ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編（互換用）
・Systemwalker Centric Manager Interstage,Symfoware,ObjectDirectorとの共存ガイド
・Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
・Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド
・Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド
・Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書
・Systemwalker Centric Manager 高信頼化適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（連携型）
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（独立型）
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド Windows編
・Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編
・Systemwalker Centric Manager Open監視 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager クラウド監視ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent トラブルシューティングガイド 監視編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Software Delivery トラブルシューティングガイド 資源配付編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集
・Systemwalker Centric Manager 用語集
・Systemwalker Centric Manager Interstage Application Server 運用管理ガイド

23．IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの混在環境について

IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの両方を利用できます。

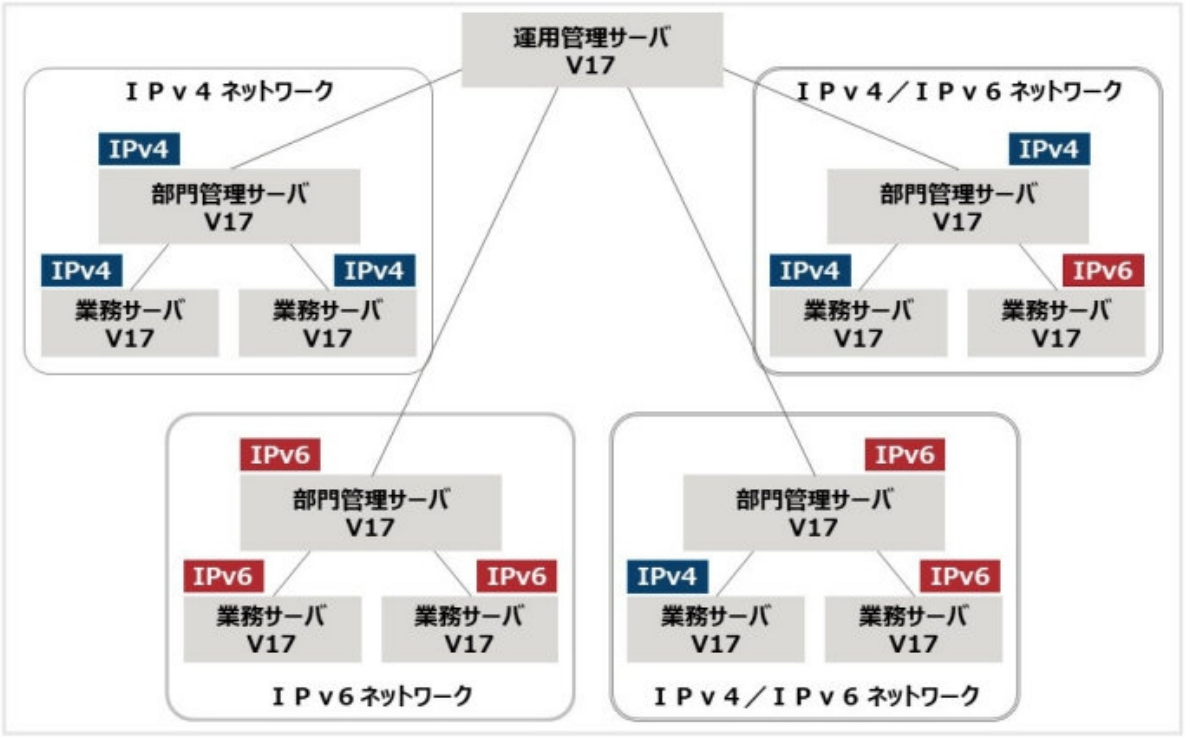
ただし、サーバ階層の上位にV13.5以前が存在するシステム構成の場合は、IPv6ネットワークは利用できません。

詳細は、以降の図を参照してください。

Copyright 2025 Fujitsu Limited

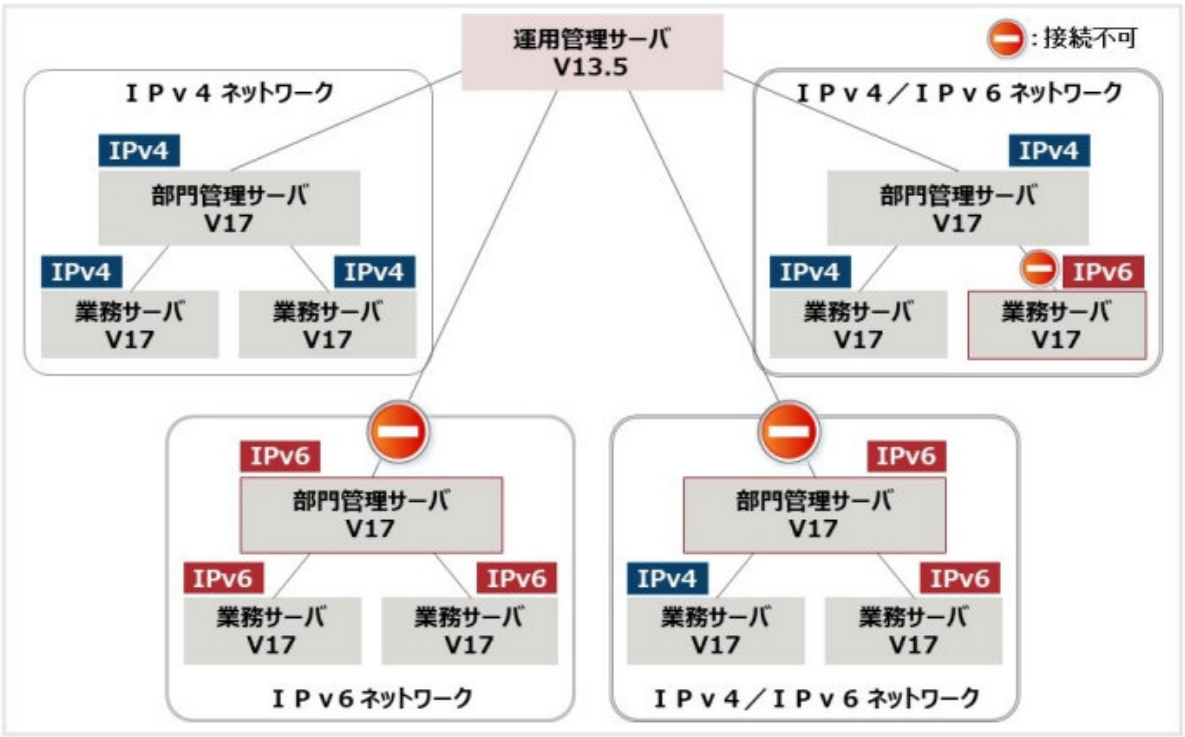
運用管理サーバ／部門管理サーバ／業務サーバがすべてV17の場合

IPv4ネットワーク／IPv6ネットワーク共に接続できます。



運用管理サーバがV13.5以前の場合

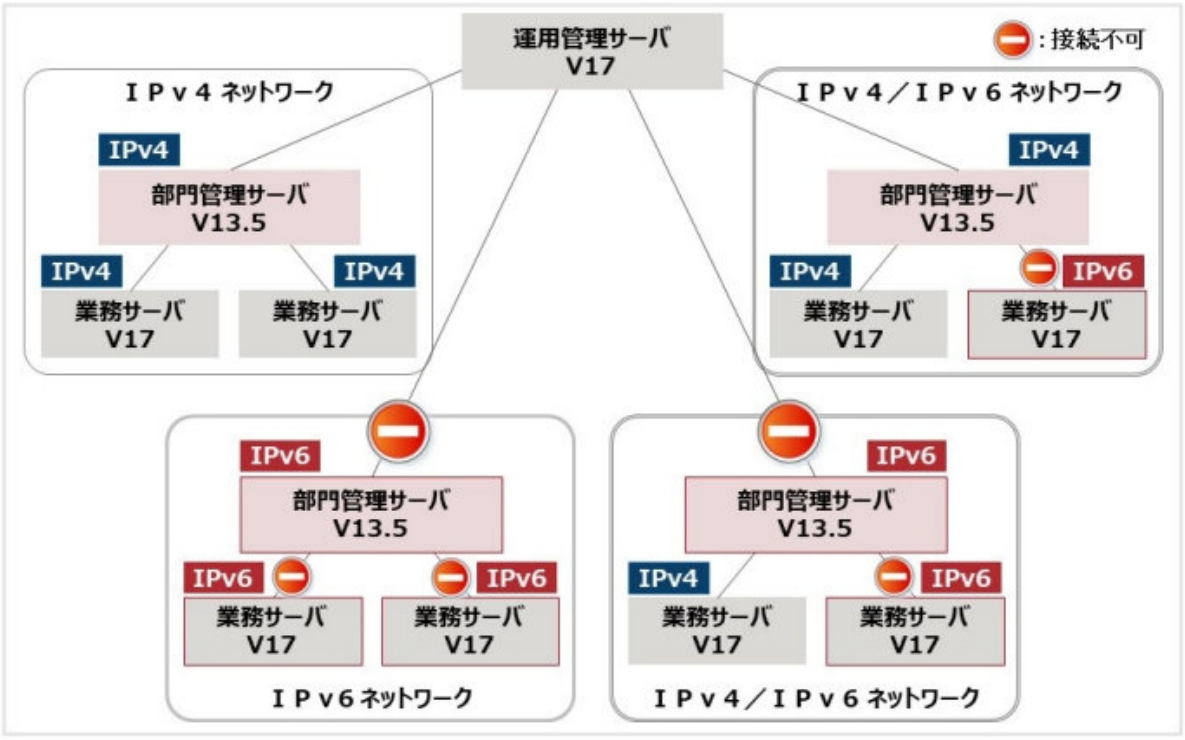
サーバ階層の上位にV13.5以前の運用管理サーバが存在する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



Copyright 2025 Fujitsu Limited

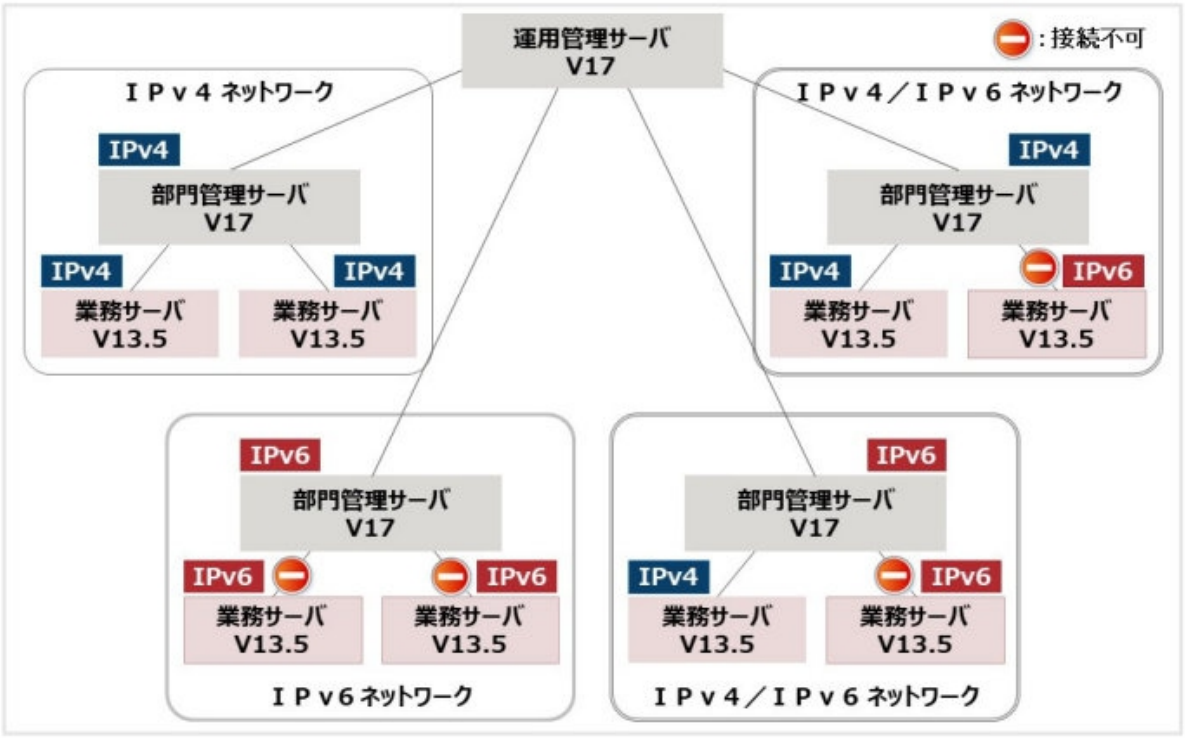
部門管理サーバがV13.5以前の場合

V13.5以前の部門管理サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



業務サーバがV13.5以前の場合

V13.5以前の業務サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



24．IPv6環境での動作について

IPv6ネットワークを利用する場合、下記の注意事項があります。

(1) 運用管理可能なIPv6アドレスの種類

Copyright 2025 Fujitsu Limited

Systemwalker Centric Managerで運用管理することができるIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。

・グローバルアドレス

・ユニークローカルアドレス

(2) Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルについて

IPv6ネットワークを利用する場合の、Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルについての注意事項について説明します。

a) 運用管理サーバのバージョンレベル

IPv6ネットワークを利用する場合は、運用管理サーバのバージョンレベルをV13.6.0以降としてください。

b) 業務サーバ、およびクライアントをIPv6環境で運用する場合

V13.6.0以降のSystemwalker Centric ManagerをIPv6ネットワークで利用する場合、部門管理サーバ、業務サーバ、およびクライアントは、以下のバージョンレベルで運用する必要があります。

・業務サーバをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバもSystemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

・クライアントをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバ、業務サーバも Systemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

c) アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する場合

アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する際、アクションを要求するホストと、実際にアクションを実行するホストが同一でない環境にすることができます。

このような環境で、IPv6通信を利用してアクションを実行する場合、すべてのサーバ、およびクライアントに、V13.6.0以降のSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。

(3) IPv4アドレス、IPv6アドレスのみを持つ、サーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視する場合の注意事項

IPv4アドレス、IPv6アドレスのみを持つ、サーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視する場合の注意事項について説明します。

・IPv6アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv4アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

・IPv4アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv6アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

(4) IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータで動作させる場合の注意事項

IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータで動作させる場合の注意事項について説明します。

a) 一度使用するIPバージョンが決定すると、該当のIPバージョンで処理を続けます。ご注意ください。

b) IPバージョンの決定方法について

ホスト名からIPv4とIPv6両方のIPバージョンのIPアドレスが解決できる場合、Systemwalker Centric Managerは、以下のようにswsetuseipコマンドで設定したIPバージョンで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv4”が設定されている場合、IPv4アドレスで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv6”が設定されている場合、IPv6アドレスで通信を行います。

ただし、以下の機能については、フレームワークデータベースに登録されているノード情報を元に通信を行うため、swsetuseipの設定に関わらず、代表インタフェース、または業務インタフェースを元に通信を行います。

・ネットワークの監視

・Systemwalkerコンソールより起動されるコマンドと画面の一部

c) 運用管理サーバが所属するサブネットフォルダについて

Copyright 2025 Fujitsu Limited

IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータ上の運用管理サーバでは、フレームワークデータベース作成時に運用管理サーバが所属するサブネットフォルダが、swsetuseip（IPバージョン設定/表示コマンド）コマンドで指定したIPバージョンにより異なります。

・IPv4が設定されている場合、IPv4のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv4のサブネットフォルダに所属します。

・IPv6が設定されている場合、IPv6のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv6のサブネットフォルダに所属します。

25. ReFS（Resilient File System）へのインストールについて

運用管理サーバをReFS（Resilient File System）にインストールして使用することはできません。

26. Live Help（リモート操作機能）の留意事項

(1) Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022上で利用する場合、画面のタッチ操作によるリモート操作はできません。

(2) FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、パブリッククラウド上でリモート操作機能を利用する場合は、下記の留意事項があります。

・コンソールが利用できる必要があります。コンソールが利用できない環境ではリモート操作機能を使用することはできません。

・リモートデスクトップ接続で利用する場合は注意事項があります。

詳細は以下のマニュアルを参照ください。

- Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
- Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド

27. PRIMEQUEST 3000 シリーズのMMB（サーバ管理専用ユニット）の監視について

TLSプロトコルのサポート状況より、HTTPSによるノードの稼働監視はできません。

ノードの稼働監視には、HTTPS以外のプロトコル（ICMPなど）をご利用ください。

28. VMware ESXi 6.5以降の仮想マシンの監視について

仮想ホストと仮想マシンの関係を検出して作成する監視マップ（仮想マシンの監視マップ）を作成することができません。

29. パブリッククラウドについて

対象となるパブリッククラウドについては、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）」内の「OSへの対応状況」でご確認ください。

30. ハイブリッド監視機能で監視できるクラウドサービス

ハイブリッド監視機能で監視できるクラウドサービスと連携できる監視ツールは以下のとおりです。

・Amazon Web Services

[監視ツール]

- Amazon CloudWatch
- Amazon CloudWatch Logs

・Microsoft Azure

[監視ツール]

- Azure Monitor

・Oracle Cloud Infrastructure

[監視ツール]

- Oracle Cloud Infrastructure Monitoring
- Oracle Cloud Infrastructure Logging

Copyright 2025 Fujitsu Limited

関連URL

お客様向けURL

- **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Centric Manager）**

  製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/centricmgr/

- **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

  価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/

- **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

  「ライセンスについて、くわしく知る」の項で、富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/

- **ソフトウェア：富士通（マニュアル）**

  富士通のソフトウェア製品に添付されているマニュアルが閲覧できます。
  https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/manual/

Copyright 2025 Fujitsu Limited